



PTA新聞

ふくおかけん

発行所/福岡県PTA連合会
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50
福岡県吉塚合同庁舎5階
TEL092-643-7766 FAX092-643-7767
発行人/松尾 和昭
編集/広報委員会



県P連電子メールアドレス info@fukuokakenpta.gr.jp 県P連ホームページアドレス http://www.fukuokakenpta.gr.jp

地域の「声」を聞き 語り合いました

6ブロックで第1回市・町・村代表者会議



福岡県PTA連合会(県P)の令和3年度第1回市・町・村代表者会議は昨年10月30日、行橋市のリブリオ行橋で京築ブロックの会議が開催されたのを皮切りに12月11日の福岡ブロックの会議まで県内6ブロックで順次開催されました。グループ研修のテーマは「PTA活動の情報交換」など。県Pの役員が、各地域に出向き、現地のPTA役員の方々と語り合い、PTA活動を、より充実させよう



具体例を挙げて続いたグループ討議(北九州ブロック)

という趣旨です。11月17日夕から、直方中央公民館を会場に開催された北九州ブロックの会場では、松尾和昭会長ら15人が参加。グループに分かれての討議では①学校の統合再編で意見がまとまらないので関係者の話し合いをアプシユしている②体育会の映像をダウンロードも使って撮影したDVDを作成して保護者に見てもらった③保護者のためにもタブレット端末を使った授業を保護者に

最後に松尾会長は「顔を突き合わせて、いろんな情報交換ができて盛り上がった。一步、一步、有意義な時間が増えるように単Pでも取り組んでください」とアドバイスしました。他の地域の開催日時は次の通りです(昨年)。
▼筑豊 11月5日、飯塚市・筑豊教育事務所
▼南筑後 11月9日、筑后市・南筑後教育事務所
▼北筑後 11月20日、久留米市教育センター
▼福岡 12月11日、福岡県中小企業振興センター
◇
なお、第2回市・町・村代表者会議は3月26日14時から、福岡県中小企業振興センターで、今年度と次年度の代表者が出席して開催の予定です。

福岡県PTA連合会 まなびのひろば

時を刻む 学びと交流 ~子どもたちのために協働的活動を~



福岡県PTA連合会のスケールメリットを活用し、社会教育関係団体としての大人の学びと交流を支援し、PTA活動の活性化と会員の成長に資することを目的に開催します。

<全体会(ライブ配信)>

福岡ソフトバンクホークス前監督

工藤 公康 氏

基調講演 「自分が変われば未来が変わる ~失敗から学ぶコミュニケーション~」

期 日 令和4年4月17日(日) 13:30~

集成型研修及びオンライン配信

会 場 朝倉市総合市民センター

ピーポート甘木(朝倉市甘木198-1)

参加費無料!お申し込みはこちらまで → URL: <https://forms.gle/DsHvSupLHGEGzv6q6>

申し込み受付は3月15日~25日。参加者多数の場合は抽選となります。



<分科会(録画配信)>

配信期間

令和4年4月18日(月)~

配信方法

YouTubeでのリモート配信

分科会	テーマ	講師
第1分科会	保護者に対するフィルタリング啓発研修会~保護者編~	NTTドコモ 制作映像
第2分科会	PTAとは~保護者の学びについて~	福岡県PTA連合会顧問 永原 譲太郎氏
第3分科会	親子の絆を深める家庭教育(発達障がいの理解と支援の手立て)	中村学園大学教育学部 心理学博士 吉川 昌子教授
第4分科会	子育てQ&A	福岡県教育委員会 ほか

福岡県PTA連合会には、昨年、3部門に678作品が寄せられ、中村さんの標語は、中学生の部の優秀賞に選ばれ、日Pに推薦されました。
◇
今年の三行詩コンクールは4月に募集を予定しています。

何もしません。この詩が何か挑戦しようとしているたかさんの人を勇気づけられたらいいと思います」と話しています。



中村虎太郎さん

中村虎太郎さんが佳作に 三行詩コンクール
中村さんは「勉強のやる気が起らなかった時に、自分を元気づけるために詠みました。心の中でいつかやろう」と思っていたのも行動に移さなければ

「いつかやるー」
そんないつかは
やっここない

日本PTA会長表彰

令和2年度日本PTA九州ブロック研究大会熊本県大会第5分科会において、提言校として取り組みを発表させていただきました。このことは、改めて本校のPTA活動を振り返ることになり、組織としての活動の活性化につなげるきっかけとなっています。

中間小は、今年度で創立142年目を迎えました。PTA組織としても長い歴史があり、活発な活動が行われてきました。近年では、少子高齢化に伴って年々児童数が減少する中、家庭的な温かい雰囲気を大切にPTA活動を行ってきました。そして、子どもたちの健全育成を願って、地域との連携を進めてきました。しかし、コロナ禍において、活動の多くは自粛となり、お互いが顔を合わせる機会がなくなっています。

令和3年度は、「できることをみんなの力で」という中間小学校PTAのスローガンのもと、「子どもたちの笑顔のために何ができるか」を考え

中間小(中間市)が喜びの声

ながら活動を進めてきました。同じ場に集まなくても、思いを共有し、PTA・自治会・青少年育成市民会議・まちづくり協議会の取り組みが「子どもたちの健全育成」という目的としてつながっている地域連携を目指してきました。

今後も大切にされてきた思いを引き継ぎ、しっかりと子どもを中心に据えながら、さまざまな変化に対応できる活動に努めていきたいと思ひます。

(中間小PTA会長 林 樹一)



令和3年度の日本PTA全国協議会(日P)会長表彰のPTAが決まり、表彰式が昨年の11月19日、東京都内のホテルニューオータニで行われました。意欲的な取り組みなどを行ったPTAと個人の表彰で、福岡県PTA連合会関係分は、つぎの通りです(敬称略)。

日本PTA全国協議会 会長表彰

団体
中間市立中間小学校PTA

個人

- 吉村 竜一
- 川上 洋一
- 和田 朋子
- 秀村 香織留
- 野上 真吾
- 大塚 政宏



PTA新聞を大いに語る

日P広報紙コンクール受賞の2PTAにインタビュー

福岡県PTA連合会(県P)の広報委員会(大崎一貴委員長)は、1月15日、日P広報紙コンクールで受賞した2校のPTA広報紙の担当をされた宇美町立桜原小の杉村ひとみさんと前飯塚市立飯塚二中の渡邊福さんを招き、広報紙づくりの向上をめざし意見交換・交流とインタビュー会を開催しました。



視点を変えて物事を見る

前飯塚市立飯塚第二中PTA教養委員長

渡邊福さん
(平成28年度・30年度・令和元年度佳作)

杉村 広報委員歴5年目です。渡邊 小学校から広報を担当しており十数年になります。昨年一番下の子が中学校を卒業しました。

紙面の見せ方

杉村 新聞の形が変わってきているというのほすく感じています。インターネットの普及により、映像や画像が増え「新聞」文字ではなくなっています。最近共働きで忙しい家庭も多く、新聞を取っていない家庭が増えていて、スマホ片手に情報を探ってニュースを知る人も多い。「新聞」文字をやめて、脱皮しないと成り立たないのが現状。目につく写真などに文字が少しく、内容が凝縮されている記事で、家事の合間にさっと読んで「そういうことね」と内容がわかるような記事をめざしています。

紙面づくりのきっかけ

杉村 みんなの雑談や、普段の会話からの話が記事につながりました。そういう気付きをきっかけに紙面づくりをしていくと、委員のみんなも楽しく進められますよね。「知らんのか?」から始まり、元ネタは町の広報紙だったり、ネットニュースのトップニュースだったり。お母さんたちの普段の話の中でも、子どもがからむ話だったらおのずとその話が出てきますから。

先生たちの参加は?

杉村 先生方の参加のおかげで先生視点の話がどんどん出てくるようになりました。「名前は公表しないので」と約束したうえで本意を言ってくれるようになりましたし、取り上げてもらえたらいいなと思うものも要望としてあがるようになりました。

先生方に任せて、やるかやらないか決めてもらうこともあります。

渡邊 先生方と学校の理解がないと、私たちが思っている新聞が書けないんですよ。

県P広報紙づくりの研修会 役立てて

渡邊 研修会に参加するとすごく勉強になります。

地域とともに

渡邊 取材とかあるときは行ける人を募って集まりました。広報紙研修会に行くと、地域のネタを取り上げているところが受賞していたので、「じつは地域のネタを」と思って

学校と地域の方の協力が大切

宇美町立桜原小PTA広報委員長・前宇美東中PTA副委員長

杉村ひとみさん
(平成29年度・令和2年度・令和3年度・令和4年度・宇美東中V佳作)

地域で面白い事している人を探して取材しました。

杉村 地域の人は協力的で面白い方が多くて「いいよ、いいよ」と言ってくれて取材してくれました。昨年、町が町制100周年だったのですが、それも記事にしました。

保護者の方の反応は?

杉村 中学の時には自習ノートを取り上げました。子どもが自習ノートを使っていると知らなかった方がたくさんいて、トップ記事で扱った紙面を見て、自習ノート見るようになったというお母さんいました。学校のプリントとかに書いてあったも「子どもは「親の目にふれるから」と家に持ち帰らないこともあり…」それだったら、紙面で伝えましょうと特集しました。

学校などの協力について

杉村 保護者や、先生たちの生の声を載せたいんです。修学旅行とか行事の記事は、子どもたちの様子を伝えるのではなく別のやり方があるのでは?記事にはいけないってことではなく、見る角度を変えましょうという話です。

特集どう進めていく?

杉村 内容を学校の広報担当の先生に話をし、上の先生に尋ねてもらって「いいみたいですよ、構成を出していただき」なる。今までは、毎年内容が一緒だったので、紙面を変えてきました。一緒にしてくれる人も大事ですよ。一人でもいてくれるととても心強いです。

個人情報・写真掲載について

杉村 誓約書で「写真の掲載はだめです」という人が一人でもいれば、その学年の掲載は控えるようにしています。地域にも同輩しているのでも、子どもを表紙に載せるときは神経を遣います。カラーで裏表紙に掲載するときも許可をもらった人だけですね。

紙面が白黒なんでモザイクか

渡邊 紙面が白黒なんでモザイクかなくても見えないんですよ。本当はカラーで出したいけれど、反対に色選びが大変です。白黒の方が楽ですよ。

貴重なお話しありがとうございました

杉村 先生方と学校の理解がないと、私たちが思っている新聞が書けないんですよ。

先生方に任せて、やるかやらないか決めてもらうこともあります。

渡邊 先生方と学校の理解がないと、私たちが思っている新聞が書けないんですよ。

先生方に任せて、やるかやらないか決めてもらうこともあります。

渡邊 先生方と学校の理解がないと、私たちが思っている新聞が書けないんですよ。

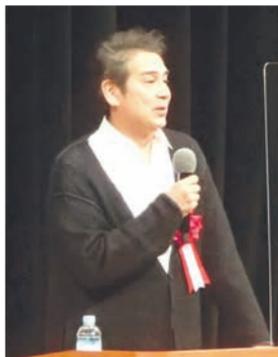
コロナに負けず 多彩な企画

ブロック研修会 報告

京築ブロック

南筑後ブロック

昨今のコロナウイルス感染症の感染拡大予防のため私たちの生活や行動が制限されることになりました、子どもたちの学校生活においても大きな影響がでています。昨年は学校行事の中止や大幅な縮小となり子どもたちにとって悲しい一年となりました、この状況の中「今何ができるのか。今だからできることがあるのではないか」と考えるようになりました。そこで、令和3年度の県P南筑後ブロック研修会柳川大会のテーマを「逆境に負けず、家庭・学校・地域で繋がろう～子どもたちの明るい未来のために～」と題し柳川市P連合会関係者の協力のもと、11月28日にオープニングセレモニー、実践発表に講演会をハイブリット方式で実施し、多くの会員の方々にご観覧ご視聴いただきました。



オープニングセレモニーは柳川沖の石太鼓・琉球國祭り太鼓柳川支部の皆さんに演奏していただき、実践発表は柳川市立昭代中学校PTAの待鳥伸司氏に「こげんか仕事あっとばい!!!」と題して発表していただきました。

講演会では、俳優でご活躍中の宇梶剛士氏をお招きし「転んだらどう起きる?」という演題で講演していただき、生い立ちから現在に至るまでの波乱万丈の人生をお話していただき、非常に興味深い講演でした=写真。

どちらも、今後の単位PTA活動の参考になれば幸いです。
(南筑後ブロック会長 古賀 大介)

宇梶剛士さん講演「転んだらどう起きる?」

北九州ブロック

北九州ブロックの令和3年度研修会は12月4日、直方市のエクセレントガーデン迎賓館でコロナ禍の中、ハイブリット方式で開催されました。

講師に西九州大学非常勤講師で臨床心理士でもある吉村春生先生をお迎えし「心がかぜをひくとき～`安心感、と自立一」という演題で子どもたちの安心感や自立に向けた大人のかかわり方についてお話していただきました=写真。

人は生きている限り、必ず、心がかぜをひくことがあります。親は子どもの不安感のサインに気づいてあげること、かぜをひいている時は不安を抱えていて、安心感を与えてあげることが必要となります。

吉村先生は安心感の量をペットボトルの中の水の量に、そして自立する子どもを飛行機に置き換えて、飛行機を安定して飛ばすためには、心のエネルギー（燃料）が必要であることを自身の経験や、家庭のエピソードを交えてテンポよくお話していただきました。会場からは何度も笑い声がわき起こり、絶妙なトークに皆さんが聴き入っていました。

子どもには安心感が必要で、そのために「甘える相手（親の安心感）」と「夢中になれるもの」があれば、心のエネルギーをためることが出来ます…そんな吉村先生のメッセージが心に染みる講演会でした。

(北九州ブロック会長 倉地 宏治)



講演は「心がかぜをひくとき～`安心感、と自立一」

京築ブロックの令和3年度研修会は11月13日、豊前市立宇島小学校体育館およびオンライン上のハイブリット方式で地元県議、教育長など御来賓の皆さまのご臨席のもと開催されました。

研修会のテーマは「親学～人として、大人として、子どもたちに誇れる親の姿～」を掲げ開会行事に引き続き実践発表で行橋中学校、勝山中学校の発表、NPO法人はあとスペース代表・山本美也子氏をお迎えし「モラルで守れる命のはなし」の演題のもと、ご講演をいただきました。実践発表では、コロナ禍でPTA活動が制限される中、できることを、できる形で行っている事例や特色ある取り組みの紹介がありました。

また、講演会では、千葉・八街での児童を巻き込む飲酒運転の事故とともに、実子を飲酒運転事故で亡くされた経験などのお話を聞かせていただき今一度、参加者全員で飲酒運転撲滅へ気持ちを確認したとともに子育てをする親の姿勢の大切さなどの話をうかがうことができました。

21世紀を担う子どもたちを心豊かに、たくましく育てていくためには、私たち大人は、子どもたちが、自分の力を信じ、周囲への感謝や思いやりの気持ちを持ち、自分の夢に向かって前向きに進んでいけるような社会の仕組みを整えていく必要があります。その基盤としての家庭教育の在り方を再度一人一人が見つめ直し、家庭教育の充実に取り組んでいかなければなりません。まずは、親がしっかりと学び、考え、人として、大人として、子どもたちに誇れる姿を見せていくことが大事です。

今後も、子どもに親の姿を見せ、また、PTA活動を通して、学校・家庭・地域が一層の連携を深め、しっかりと子どもたちを見守り、育てていきたいと思ひます。

(京築ブロック会長 金光 功)

「親学～人として、大人として、子どもたちに誇れる親の姿～」をテーマに

ホームページリニューアルのお知らせ



令和4年3月より福岡県PTA連合会のホームページを全面リニューアルいたしました! 今回のリニューアルでは、皆さまにより良く福岡県PTA連合会を知っていただけるよう内容の充実・向上を図っております。

- ・スマートフォンやタブレット端末の様々な画面サイズに対応
- ・情報を探しやすく、使いやすい様構成やデザインを変更
- ・「ひろば」にて研修会等の動画配信

第1弾 `新、家庭教育宣言・実践報告会 配信

など、情報盛りだくさんです。これからも、会員の皆様のお役に立つ情報の提供や、充実した内容のホームページに随時更新をまいります。

新しいURL <http://fukuokaken-pta.jp>

福岡小PTAでは「人のつながり」をテーマに地域と連携した活動を推進しています。活動の一つとして、しめ縄飾り作り、餅つきがあります。PTA活動には、子どもたちを見守ることに加え、今、地域交流、発展の一躍を担ってほしいと願う声も多くあり、本活動も地域みんなの活動の場です。また、しめ縄、餅つき、昔からの文化伝統を交えることで、地域ご年配の方も活動に参加しやすく、準備や作り方などの手ほどきを通して、日ごろ、交流のないところに会話が生まれ、幅広い世代間の交流、つながりのきっかけの場ともなっています。



福岡
学校・家庭・地域一体で文化祭
● 福津市立福岡小

保護者に披露する「ふくまっ子まつり」を開催していましたが、昨年からコロナの影響により開催が困難となったため、内容を改め児童体験型の文化祭「ふくまっ子体験」を開催しました。PTA各委員会・保護者・地域ボランティアの協力により多くの体験型ブースが設置され、学校・家庭・地域の三者が一体となり新しい形の文化祭を実施することができ、参加した子どもたちからも大好評でした。大人数でも一人一人を大切に、コミュニティ・スクールとして地域の人々との交流を大切に子どもたちを温かく見守っていききたいと思っています。(福岡小PTA会長 久保 貴弘)

うきは市立吉井中学校では、他の市町村と同様に、コロナ禍により多くの学校行事に保護者が参加できなくなりました。たとえば昨年9月に実施された体育発表会です。3年生の保護者からは、「中学校最後の発表会が見られないのは残念」「3年生の保護者だけでも…」などの意見を多数いただきました。そこで、本年度PTA活動の一環として、それらの行事をオンラインで保護者向けに限定配信することになりました。写真。役員と学校とで協議を重ね、必要な機材や当日の役割等を検討し準備を進めました。発表会当日のライブ配信は、国



南筑後
地域交流「しめ縄餅つき」
● 柳川市立垂見小

この活動には、子や孫への思いを込めて作ってあげたいと賛同する参加者も多く、継続的な活動に期待できる結果でした。何ごとも、きっかけがあればみんなの思いは同じだと改めて感じたところです。子どもたちには、みんなが集う場の楽しさを感じてほしいと思います。そのことが結果、次の世代につながるのだと考えています。これからも地域の発展に必要なPTAとして、「人のつながり」を少しでも広げられるよう活動を推進していきます。(垂見小PTA会長 千倉 賢治)

北筑後
学校行事をオンライン配信
● うきは市立吉井中



北筑後
学校行事をオンライン配信
● うきは市立吉井中

外からチャットによる応援をいただくなど遠方から子どもたちのがんばりを応援してくださる保護者の方もいらっしゃるごことがわかり、動画配信の充実感とともにその責任の重さを改めて感じました。また、ライブ配信後、2日間限定の継続配信を行ったことで、競技以外の姿(係の仕事等)も、家族での話題となったようです。体育発表会以降、文化発表会やPTA研修会等のライブ配信も実施。今後も学校の行事等を地域や家庭にお届けできればと考えています。(吉井中PTA会長 石蔵 慶典)

県教委通信

子どもたちは、社会とのつながりの中で学ぶことで、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができるという実感を持つことができます。このことは、変化の激しい社会の中で、子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望と力につながります。

福岡県教育委員会では、平成29年度から地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」を推進しており、県内各地で、地域の特色に応じた多くの活動が行われています。

筑前町では、公立高等学校退職校長会筑後支部と同町教育委員会が連携して、中学生を対象とした放課後等学習支援「筑前町オンラインアタススクール」が行われています。コロナ禍においてもオンラインを活用して学習を継続しており、指導力の高い講師陣による指導や、家庭にないがら授業が受けられることなどから好評で、生徒の学習意欲を高めています。

福岡市立津屋崎中学校では、地元「郷づくりの会」や行政と連携して、海岸の松林の清掃活動が行われています。

「地域学校協働活動推進員」は、地域住民等と学校との連絡調整を行うコーディネーターであり、活動の企画・立案や、関係者との連絡・調整、地域ボランティアの募集・確保などが主な役割です。令和2年度は284名の推進員のうち111名がPTA、元PTA関係者となっています(県調査)。多くの方に協力いただきありがとうございます。

皆さまがお住まいの地域でも、すでに「地域学校協働活動」に取り組まれている学校があるのではないのでしょうか。子どもたちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたいという思いを登下校の見守りや、学習活動の補助等、多くの活動に積極的に参画することで、自分たちの力で実現していく機運を高めていただければ幸いです。(社会教育課)

地域みんなの力で子どもたちの未来を切り拓こう



そのため、地域と学校が連携・協働し、これからの社会を創り出していく子どもたちに必要な資質能力を育成することが求められています。

福岡市立津屋崎中学校では、地元「郷づくりの会」や行政と連携して、海岸の松林の清掃活動が行われています。

(5)

PTA通信

京 築



コロナ2年、充電期間に飛躍

●みやこ町立豊津中

守るを優先し、活動を見直し・縮小してまいりました。

その中においても、3年生の伝統である体育大会時の「応援団演舞」は続けることができ、無事に後世に引き継ぐこととなりました。また、生徒たちが始めたSDGsの取り組みを来以降地域・学校・保護者で盛り上げ、持続可能な社会作りを共に考えていけたらと思っています。

なかなか活動のできない学校も多々あると思いますが、共にこの2年間を充電期間として、来年以降飛躍の1年にしていきたいと思っています。

(豊津中PTA会長 大崎 一貴)

福岡県東部に位置するみやこ町は現在学校再編を実施しており、わが豊津中学校校区も3校ある小学校を1校に再編し、1小学校1中学校となり、これからのPTA活動の在り方も考えていくことになっていくと思っております。

この2年間、コロナ下で生徒たちには我慢を強いられることだらけでしたが、その中においても「できる事を、できる人が、できるだけ」を基本にやってきました。

PTA活動では、朝の声掛け運動や写真や広報誌作りなど、できることを実施し何より生徒の健康・生徒から始まる家族を

北九州



食育で元気な子を育てよう

●水巻町立水巻中

通信」に掲載され、食を学ぶ大切さと楽しさを広く知らせました。

昨年度は、「わが家の食育ミニミニエッセイ」と題して、保護者や地域の方から食にまつわる思い出や、食の悩み・工夫をエッセイ形式の文章で募集し、多くの作品が寄せられました。これも食育通信に掲載され、コロナ禍であっても、食への関心が薄れないように工夫しました。

水巻中では朝食の未摂取など、食についての課題がまだあります。これからもPTAの皆さんの協力を得て食育を進めていきたいと思っています。

(水巻中PTA会長 古園 静二)

水巻中学校では、「食」こそ全ての学びの土台であるとの考えから、毎年11月に実施される「弁当の日」を中心に、学校・PTA・地域が協力して取り組みを行っています。

一昨年度は、おかず作りに悩む生徒や料理や食に興味を持つ生徒を対象に、地域の調理員や保護者を講師・サポートに招いて「水中クッキングタイム」を実施し、「鶏肉と人参の甘辛煮」「ブロッコリーのコンソメ煮」の2品を作りました。写真。

参加者は和気あいあいとした雰囲気の中で調理を楽しみ、その様子は季刊の「水中食育

筑 豊



放課後ミニテニス倶楽部

●川崎町立真崎小

「放課後ミニテニス倶楽部」は、放課後、月2回、1時間程度行っています。令和3年度は、3密を避けるため、対象を高学年に絞り、真崎小学校体育館で実施しています。指導者は、PTAや地域からテニス経験者を募り行っています。教員の飛び入りの参加もあり、子どもたちに好評です。写真。

コロナ禍でPTA活動を行っていくことが、非常に困難になっているときだからこそ、学校・PTA・地域が協力し、知恵を出し合い、子どもたちの成長を支える取り組みを、今後も行っていきたいと思っています。

(真崎小PTA会長 大坪 一幸)

真崎小学校では、豊かな教育活動を実現させていくために「触れ合い体験」をキーワードにPTA活動を行っています。

一昨年度までは、PTA主催の「キャンプファイア」を、夏に行うのがPTAの伝統的な行事でしたが、ここ数年、3密回避の観点から中止しています。

代わりにコロナ禍で、家庭の中でゲームやYouTube視聴に多くの時間を割いている子どもたちに、「体を動かす楽しさを伝えたい」という思いから、真崎小学校コミュニティ・スクールと連携し、「放課後ミニテニス倶楽部」の運営を行っています。

『日々是好日』9年53回 わたなべ さきさん ありがとう!



大崎広報委員長から花束を贈られるわたなべさん

福岡県PTA連合会(県P)の機関紙に平成25年7月号から「日々是好日」を連載してきた、わたなべさき(本名・渡邊福)さんの連載が足掛け9年、53回となる3月号で最終回を迎え、1月15日、福岡市博多区吉塚本町のホテルでの広報紙づくりについてのインタビューのあと、感謝とねぎらいの気持ちを込めて、大崎一貴広報委員長が記念の花束をわたなべさんに贈りました。

わたなべさんは嘉麻市出身。鹿児島女子大英文科在学中に、漫画同人誌に参加。PTA新聞作りには、子どもたちが通っていた飯塚市内の小学校の広報紙づくりに加わって以来、学校のPTA新聞の取材・編集・発行に深く関わってきて「卒業」しました。広報紙づくり

わたなべさんは「福岡県PTA連合会70年記念誌時代を超えて」の編集にも参加、記念誌には「日々是好日」の傑作選が掲載されています。「後継者を育てよう」と考えるより、その年その年にできる人ができるようにやったらいい」と、力まず自然体での広報紙づくりの継承を大切に」と語っています。

日々是好日 完 その53 わたなべ さき

連載スタート当時長男は高3、末っ子は小2だった

しかも高3と中3でW受験!!

大変だった

記念すべき『日々是好日』の最初のコマ

ネタにされてきた子どもたち

今や上は社会人下は大学や高等部に入学した

いつの間にか9年の月日が流れていた...

そうです大丈夫! 月日は必ず流れます!

今は大変でしょうが日々是好日! 楽しんで生きていきましょう

今までありがとう ございました!

福岡県PTA連合会「小・中学生総合保障制度（こども総合保険）」

偶然な事故による

ケガをしても



傷害補償

偶然な事故による
お子様のケガに備えます。

ケガをさせても



個人賠償責任補償

法律上の
損害賠償責任に備えます。

まさか！の時でも、安心です。

自転車事故により、**高額**の損害賠償金の支払いを命じられた事例も発生しています！！

詳しくは、3月初旬に学校より配布されます「小・中学生総合保障制度」パンフレットをご覧ください。

この制度の詳しい内容はこちらからも確認いただけます

AIG損害保険株式会社

『お子さまのための総合保障制度』

<https://riskfinder.jp/school/>



お問い合わせ：0120-228-553

受付時間 平日 午前9時～午後5時

- 制度取扱代理店：株式会社コーリン（福岡県PTA連合会保障制度事務局）〒810-0022 福岡市中央区薬院4丁目3-5 セレス薬院5F
- 制度引受保険会社：AIG損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 Chubb損害保険株式会社

この広告は「小・中学生総合保障制度（こども総合保険）」の概要についてお伝えしています。ご加入の際は必ずパンフレットおよび重要事項説明書をご覧ください。

～浮羽中学校のSDGsを訪ねて～

2015年に国連で提唱された「SDGs 持続可能な開発目標」。国連加盟の193カ国が2030年までに世界共通の目標達成のために取り組む17項目を定めたものです。最近、各企業が17の項目の中から、目標を決めそれぞれの企業活動の中で取り組むアウンスがされて、やっと周知されてきていると思います。ふだんの生活の中にも、すでに皆さんがSDGsに関わっていることがあります。

身近な例で、レジ袋の有料化があります。ビニール袋が、海洋でマイクロプラスチック(非常に細かくなったプラスチック類)となり、魚やウミガメがエサと間違え、食べることによって海洋生物の減少等を招いている報道がされ、ビニールやプラスチック製品の使用を減らそうと、すでに、皆さんが取り組んでいる目標となっています。

今回取材させていただいた、浮羽中学校

誰も置き去りにしない世界を目指して



では、生徒会の「ボランティア活動をしたいです」というきっかけと、先生のお店での気付きにより、学校のみならず企業と協働し同じ目標に向かって行動するといった、素晴らしい活動となっています=写真。

今から生徒自身が生活していくこの世界を、守っていく、この開発を持続させていくという取り組みに感動し、私自身も考え直す機会となりました。

生徒会のインタビューを通して、この活動が生徒たちの将来の夢にも良いきっかけを与えていることに、この活動が持続していくことでさらなる「持続可能な開発目標」に、つながっていくんだろうなと心強く思えました。

皆さんも、小さなことからでも目標を決め取り組んでみませんか？ お子さんが生活していく未来のために…。

(県P広報委員長・大崎一貴)

生徒会長 田中 咲菜

私は、今の私たちの生活は当たり前ではないということを改めて感じました。世界中の人の笑顔があふれる幸せな未来を目指して、これからも積極的にSDGsの活動に参加していきたいです。



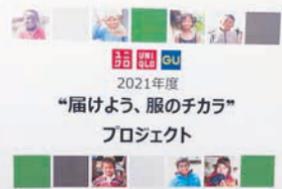
副会長 大山 卓丸

私は、SDGsはこれからの世界を形成していく上でとても大切なことだと分かりました。一人だけで解決できる問題ではないので、もっと周りの人たちに伝えていこうと思いました。



副会長 向 愛菜

私は、SDGsの目標について深く知り、行動していくことが大切だと思います。多くの人々が心のどこかで他人事として考えているので、自分のできることを考えて行動したいです。



書記長 諫山ももな

私は、回収した服は難民の方を助けることができると知り、今回の活動でたくさん服が集まって良かったです。困っている人を助ける力を持つ服を大切にしていこうと思います。

学習委員長 井上 咲太

今回の活動で、SDGsについて深く知ることができました。これからも積極的に参加し、多くの人々の力になりたいと思いました。また、多くの人にSDGsについて知ってほしいです。

学習委員長 矢野 綾花

私は、学校全体で協力して誰かの役に立てることができてとてもうれしかったです。これから身の回りにあるSDGsの取り組みに自分から参加し、環境を良くすることを心がけていきたいです。

生活委員長 麻生 暁斗

今回の活動で、予想よりもたくさん服が集まったので驚きました。また少しでも多くの人たちにSDGsについて知ってもらい、みんなが自分たちにできることに協力していききたいと思います。

生活委員長 久保山純花

私は、世界には難民問題や教育が行き届いていないことなど、改善すべきことがたくさんあることが分かりました。これから自分にできることから取り組んでいきたいです。

浮羽中(うきは市)のチャレンジ

スローガン: 『Think globally, act locally.』

SDGsやって良かった!



体育委員長 牛島 輝

今回の取り組みで世界の難民の人たちを救えたと思うと、とてもうれしいです。これからは多くの方がSDGsの取り組みに協力して、世界の問題が解決していくといいなと思いました。

体育委員長 金丸 涼香

私は当たり前のように与えられている服が、貧困で苦しむ人々にとっては貴重なものだと改めて感じました。私たちが集めた服が届いて、一人でも多くの方が笑顔になれたらうれしいです。

厚生委員長 西郷 勇輝

今の生活を続けている地球に住めなくなることが遠い将来ではないと感じました。人々が地球で豊かな生活ができるように、私はレジ袋の使用を減らしていきたいです。

厚生委員長 江藤 心優

今回の活動で集まった服を見ると、とてもうれしくなりました。理由は世界で困っている人の役に立てたからです。これからもSDGsの取り組みに参加していきたいです。

給食委員長 熊懐 樹

SDGsとは、些細なことなのかなと思っていましたが、調べていくにつれてどんどん好奇心が湧いてきました。テレビやネットでもよく見かけるようになり、学習できて良かったです。

給食委員長 樋口いろは

私は、世界にはいくつも改善しなければいけない課題があることを知って、とても驚きました。少しでも課題を改善できるように募金や洋服の回収に協力しようと思いました。



文化委員長 山手 壮真

私たちは恵まれており、世界には苦しむ人々が多いことを知りました。そんな人々を地球上から1人でも減らすために、私たちができることをしっかりと考えて行動したいです。

文化委員長 尾花 彩巴

私はSDGsの取り組みで、自分の生活を見直すことができました。世界が抱える問題を知り、改めて私は豊かに暮らしていると感じました。水の無駄遣いや食品ロスを減らしていきたいです。

放送委員長 宮崎るうと

この世界は何が起こるか分かりません。現在もどこかで戦争が起きているかもしれません。こんな世界でいいでしょうか。ほくはこの世界が平和で安全な世の中になることを望みます。



放送委員長 熊懐 七美

この活動は、洋服を再利用でき、多くの人の幸せを得られるのです。私はこれからの生活で、ものを大切に使うことを心がけて、地球環境を守ることに貢献したいです。

担当(先生) 佐藤 祐太

生徒たちは、自分たちの取り組みが世界の人々の役に立つことにやりがいや達成感を感じていました。SDGsについて知るとても良いきっかけになったと思います。





山際千津枝の
食べるっていいですね

>108<

今年の旧正月は2月1日でしたが、それにしても今ごろ、お正月の話って少しずれていきますよね。まあ来年の参考にと読んで読まれてください。(鬼さんから笑われるかもですが)。

「しめ縄ってなんですか」と聞いたのはテレビ局の若い女性でディレクターさんだったのですが、それくらい正月飾りをしない家庭も増えたというところかもしれません。確かに昔より正月のめでたさが薄くなっている気がします。

「正月といっても31日の次の日というだけじゃん」と言われれば確かにね。それならばなぜこんなにも長い年月私たちは新しい年を祝ってきたのでしょうか。

暦が月の満ち欠けをもとに太陽の動きを加味した「太陰太陽暦」から明治6年に太陽の動きをもとにして作られた「グレゴリオ暦」に変わって、今の1月1日はまだまだ寒くて、初春を祝うという感じにはなりにくいですが…。

ここから古代人になったつもりで読んでいただきたいと思います。私たち人類はいつもお腹を空かせていました。まだ農業の発明もない大昔は、人間の方が大型の動物に狙われるなど危険も多く、常に飢えとの戦いであったのだと。日本ではとんどの人が、お腹いっぱい食べられるようになったのは第二次世界大戦のあと少し落ち着いてからです。

お正月はなぜめでたいのでしょうか

マンダースの独り言

昔、全国の縄文の遺跡を巡りましたが、祈りの場所の多さ、多様さに驚きました。太陽のパワーを無料で使わせてもらい(ここは私の思い込み)命が永遠に続くことを祈るのに人種も宗教も関係ないのです。しめ縄を飾ろうとか三社参りに行く(うん)など言っているわけではありません。

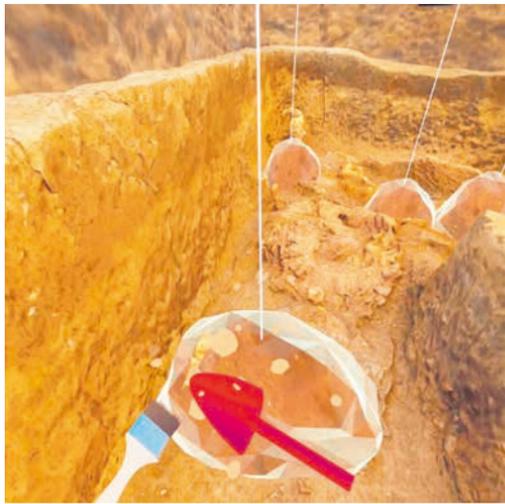
一年のけじめとして嫌なことマイナスなことはリセットして新しい希望を持つ日と考えてお祝いしましょう。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。

お年寄りの中には空腹の経験をした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

寒く暗い冬になると、食べ物となる植物も枯れてしまいます。狩りも思うようにはいきません。川も湖も凍ってしまい魚も採れません。明日どこか今日食べる物がない怖さ、想像してみてください。もうダメだと思ったその時、太陽の力が戻り明るく温かくなり小鳥がさえずり始め、動物も子を産み、植物も芽吹き始めます。その時の喜び…世の中が新しく蘇ったのです。うれしくて太陽や何か大きな力に感謝し祈ったに違いありません。続く命への喜びです。

展示資料や発掘現場を体感できる「九歴VR」

九州歴史資料館(九歴)では令和2年度に新たな文化財のデジタルコンテンツを制作しました。ここでは、当館で推進する先進的なデジタル技術の応用により制作した、VR(バーチャルリアリティ)で展示資料や発掘現場を体感できるコンテンツを紹介いたします。



VRで発掘も体験できます



VR体験中!

専門家にしかできない体験、本物を間近に見る臨場感を味わってください!

は見ることや、入ることは不可能です。こうした不可能を実現したい、また、調査担当者が体感している臨場感を味わいたい、そのような思いをVRでかなえる

九州歴史資料館
小郡市三沢。
西鉄天神大牟田線の三国が丘駅から約700m。
☎0942(75)9575

今回、VRで体感できる発掘現場のうち、豪華な国宝級の馬具が出土したことで話題の古賀市船原古墳では、ヘッドマウントディスプレイを装着すると、まず500点以上の馬具などが広がる、まさに発掘直後の現場に立つことから始まります。そして実際に現場の中を歩きながら、手にしたコントローラーがシャベルとハケになって、豪華な馬具を発掘できます。発掘された遺跡や馬具は、高精細3Dデジタルデータを利活用しているため、実物と全く同じ形状です。馬具に顔を近づけると、極限まで近づけることができます。この光景は調査担当者しかできない体感です。私たちが現場で体感している臨場感を、来館者のみなさんにも味わっていただけます。

この他、同じく船原古墳の石室のほか、当館で発掘調査を行った、みやこ町の「見大塚古墳」では、内部に丸や三角で描かれた装飾がある石室や、豪華な大刀や馬具が出土した様子を探査することができます。

これらのVRコンテンツ

は、現在、当館の古代体験で、毎週日曜日に尊衣婆座像のコンテンツを体感していただけます。今後、順次、発掘現場のコンテンツを増強する予定です。また、将来的には学校などへの出前による体験も考えられます。

私たちは、展示資料の調査や発掘現場で味わっている臨場感を多くの方々に体感していただけたらと思いますので、ぜひ当館に足をお運びください。(保存管理班長・加藤和成)

県P委員のひとりごと

私には思春期真っただ中の中3なる息子がおり、親子時間をどう持つべきか?のヒントを求めていることから、まさに私にとって家庭教育委員会があります。ありがとうございます。委員会では、他校の取り組みや、「生まれてきてくれて、ありがとう」と題する期待に満ちた講演も聞近で聴くことができます。環境に感無量です。委員会ですんだ「あたり前は一つもない」ことを胸に、息子にもたくさんありがとうを伝えていきます。(熊)